

令和2年6月3日

目黒区長
青木英二 様

NPO法人 マンマの会
代表 今井真理

新型コロナウイルス感染症自粛期間の 乳幼児家庭の対応に関する要望書

標記の件につきまして、コロナ感染拡大 第二波に備えて早急に対処していただきたく、下記のとおり、お願い申し上げます。

記

1. **【要望の趣旨】** 子育てサロンcocolo 利用者を対象に、2020.5.5～5.15 の期間オンラインアンケートを行いました。そのアンケート結果をもとに、目黒区在住の乳幼児家庭の実情を把握していただき、自粛期間の対応についてご検討いただきますようお願いいたします。

2. **【要望の理由】** アンケート結果の詳細については別紙資料をご覧ください。アンケート結果から、下記に示します主に3点の課題について多くの意見をいただきましたので、早急にご対応いただきますようお願いいたします。

3. **【要望の詳細】**

要望1 子どもの遊び場について

子どもにとって「遊び」は生きることと同じであり、遊びを通して成長します。自粛期間中、感染拡大防止のために区の屋内施設の多くが閉鎖されたことは適切な対応であったと多くの区民が感じていますが、一方屋外施設である公園の遊具が使用禁止になったことで、子どもの遊び場がなくなり、子どもを抱える家庭は大変苦勞しています。

近隣の世田谷区や品川区、大田区では、区立公園の遊具は使用禁止にしておらず、目黒区も同様に子どもの外遊びの場所を確保していただけるよう強く要望します。

乳幼児～学童には、感染リスクの少ない屋外の公園の利用制限は最小限にとどめ、

長引く自粛生活におけるストレスや健康的な発達を疎外しないために、利用の年齢制限を設ける（乳幼児～学童のみ利用可能時間を設定など）、人数を制限するなど一定の対策を施した上で、できる限り区立公園での外遊びの機会を確保できるよう、対応をお願いします。

要望2 感染時の子どもの世話について

保護者が感染したときの子どもの世話をどうするのかという心配があります。保育園も休園し一時預かりも利用できない状況で、保護者が感染してしまった場合、子どもの生活を保障する仕組みがない状態では、乳幼児への家庭内での二次感染や、食事などの健康を保障する最低限の生活をどう確保するのが切実な問題となります。

この問題については、子ども家庭支援センターを中心に、医療関係者、子育て支援者、保育者らの連携が欠かせないので、関係各所が連携を取り対応できる仕組み作りを今すぐに行う必要があります。民間の支援者も交えた対策会議の立ち上げを早急に要望します。

要望3 保育・一時預かりの必要性について

在宅勤務と保育園休園によって、家庭内での仕事と家事と育児の両立が家庭の負担となっています。短期の自粛期間であれば影響が少ないですが、今回のように1ヶ月以上にわたる自粛生活では家庭内でのストレスが極度に溜まり、最悪の場合、鬱や虐待に繋がりがねません。また体調を崩した時に乳幼児を抱えては病院に行くこともできず、必要な支援がなければ状況を悪化させかねません。

特に一人親家庭では、在宅で子育てしながらの生活は、平時でも支援を必要とするところを全く支援が受けられない状態になるので、危機的な状況にあります。

人数制限や感染防止対策を取った上での子育てひろばの開所や、一時預かりの実施ができるよう、対応をお願いします。

以上